



コースナンバー23 . たくさん良いとこ多久の恵みを巡るコース

起点	多久聖廟駐車場
距離	約5.5キロ
見所	歴史遺産と落ち着いた町並み、ほっとする風景
注意点	聖廟内、公園内などでのそーつく具合で距離は変わります。見るところいっぱい。
ご褒美	多久まんじゅう
最寄りバス停	市内コミュニティバス 0952-75-2116にお問い合わせを
コース概略	①聖廟駐車場  ②二千年ハスの池 ③聖光寺 ④東原庠舎（多久茂文公1669年建立） ⑤多久聖廟（孔子像、壮麗な彫刻など） ⑥聖堂小路（槇の生垣） ⑦専称寺（小式政資、資元の墓所、樹齢600年のツツジ） ⑧多久川の土手を少し歩く ⑨途中に高松社 ⑩草場佩川（くさばはいせん）の生誕地碑 ⑪工房陶玲（皇后美智子様祖父の生家） ⑫多久まんじゅう老舗秀島天徳堂（鯉を見ながら一服） ⑬万福寺 ⑭鶴田皓、高取伊好兄弟の生誕地 ⑮西ノ原天満宮 ⑯西溪公園（多久郷土資料館他  ⑰多久神社 ⑱若宮八幡宮（多久太郎宗直の創建、三本杉） ⑲歴史の散歩道 ⑳ゴール

世界大百科事典 第2版の解説

くさばはいせん【草場佩川】

1787-1867(天明7-慶応3)

江戸後期の漢詩人、儒者。肥前の人。名は鞆、字は棟芳、通称瑳助、佩川は号。佐賀藩の支藩の多久藩士の家に生まれ、23歳の時江戸に出て、佐賀藩出身の儒者古賀精里について学んだ。のち多久藩の儒官となり、さらに本藩の儒官に進む。資質有能で、藩士の教育だけでなく藩政にも参与し、藩主鍋島閑叟（かんそう）の信任が厚かった。詩人としての才能にも恵まれ、江戸と佐賀をたびたび往復して、萱茶山、市河寛齋、頼山陽らと親交があった。

出典 株式会社平凡社 / 世界大百科事典 第2版について [情報](#)



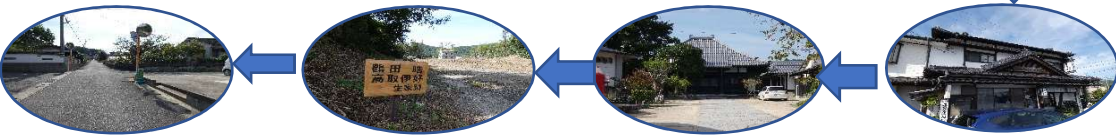
⑦右奥に小弐氏の墓所



裏から土手⑧へ



ここを右へ



⑮



⑲

